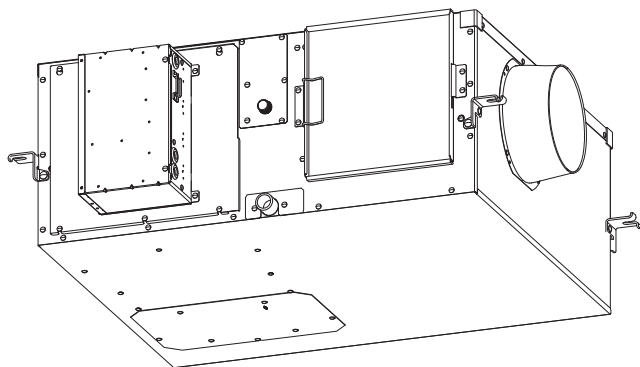


三菱業務用単独加湿ユニット  
形名

TKA-2400R2

取扱説明書

お客様用



## もくじ

	ページ
安全のために必ず守ること	2～3
特長	4
各部のなまえとはたらき	5
使いかた	6～7
お手入れ	8～9
保守点検	10～14
故障かな?と思ったら	15
アフターサービス	15
仕様	裏表紙

この製品は日本国内用ですので日本国外では使用できず、またアフターサービスもできません。

This appliance is designed for use in Japan only and can not be used in any other country.

No servicing is available outside of Japan.



ご使用前に「安全のために必ず守ること」をよくお読みになり、正しく安全にお使いください。

お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに、「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口のご案内（冷熱品）」とともに大切に保管してください。

**お客様自身では据付けしないでください。（安全や機能の確保ができません）**

# 安全のために必ず守ること







■ 誤った取扱いをしたときに生じる危険とその程度を、次の表示で区分して説明しています。






 <b>警告</b>	誤った取扱いをしたときに死亡や重傷などに結びつく可能性があるもの
 <b>注意</b>	誤った取扱いをしたとき、軽傷または家屋・家財などの物的損害に結びつくもの

■ “凶記号”の意味は次のとおりです。

 禁止	 めれ手禁止
 水ぬれ禁止	 指示に従い必ず行う

## 警告

長時間直接お肌に風をあてない 健康を損なう原因になります。		禁止
お客様自身で分解・据付け・修理・移設・廃棄はしない 不備があると、火災・感電・製品落下によるケガ・水漏れの原因になります。お買い上げの販売店にご相談ください。		分解・据付け・修理・移設・廃棄禁止
吸込口・吹出口に指や棒などを入れない 特にお子様にご注意を！ 内部でファンが高速で回転しており、ケガの原因になります。		禁止
定格電圧、制御容量範囲で使用する 間違った電圧で使用すると火災や感電の原因になります		制御容量
清掃およびメンテナンス作業時には運転を止め、必ず分電盤のブレーカーを切る ファンおよびファンモーターへの接触によるケガや感電の原因になります。		電源を切る
凍結のおそれのある地域では、給水配管に必ず凍結防止工事を行う 電磁弁・配管などが破損し、水漏れの原因になります		凍結防止

パネルやガードを取りはずさない 機器の回転物・高温部・高圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。点検時以外は絶対にはずさないでください。		分解禁止
可燃性ガスが漏れた場合はリモコンを入・切しない 電気接点の火花により爆発する原因になります。窓を開けて換気してください。		禁止
製品、リモコンを水洗いしない 製品およびリモコン内部に水が浸入して絶縁不良になり、感電の原因になります。		水ぬれ禁止
濡れた手で電源スイッチを操作しない 感電の原因になります。		ぬれ手禁止
異常時（異臭・異音・振動大など）は運転を停止して、電源スイッチを切る 異常のまま運転を続けると感電・火災や故障の原因となります。また、リモコンにエラーコードが出たり、漏電遮断器がたびたび作動する場合もお買い上げの販売店にご連絡ください。		電源を切る

# ⚠️ 注意

製品の下に濡れて困るものを置かない  
ホコリなどによるドレン詰まりにより水が滴下し、家財などを濡らし汚損の原因になります。



設置禁止

直接風のアたる場所に燃焼機器を置かない  
不完全燃焼の原因になります。製品が燃焼器具の熱で変形することがあります。



設置禁止

直接風のアたる場所に動植物を置かない  
動植物に悪影響を及ぼす原因になります。



設置禁止

特殊用途に使用しない  
精密機器・食品・動植物・美術品の保存などに使用しないでください。品質低下の原因になります。



使用禁止

殺虫剤・可燃性スプレーなどを吹付けない  
火災・変形の原因になります。



使用禁止

高温（40℃以上）や直接炎が当たったり、油煙の多い場所には使用しない  
火災のおそれがあります。



設置禁止

お手入れの際は洗剤等を絶対に使用しない  
変形、割れ等の原因になります。



禁止

機械および化学工場など酸・アルカリ・有機溶剤・塗料など有害ガス・腐食性成分を含んだガスが発生する場所には使用しない  
故障の原因になります。



設置禁止

フィルターなどの着脱のときは不安定な台に乗らない  
落下・転倒によるケガの原因になります。



禁止

製品の下方に食品や食器を置かない  
ホコリ・錆などが食品に落ちますと病気などの原因になります。食品加工場など食品を扱う場所での天井設置時は十分ご注意ください。



禁止

長期間使用しないときは、必ず分電盤のブレーカーを切る  
絶縁劣化による感電や漏電火災の原因になります。



電源を切る

リモコンを先がとがった物で押さない  
故障の原因になります。



禁止

室内を薬品消毒したあとには必ず換気をし、薬品および薬品から発生したガスを十分排気してから、製品を運転する



換気

フィルターの着脱には、保護具（メガネなど）を着用する  
目にゴミ・ホコリが入ることがあります。



保護具着用

薬品や薬品から発生するガスが付着したり、吸込んだりすると製品の腐食、変形の原因になります。

お手入れ後の部品の取付けは確実に  
落下によりケガをすることがあります。



取付け

室内を薬品消毒するときは製品に薬品が付着しないよう、シートなどで覆い、製品を停止する



電源を切る

薬品や薬品から発生するガスが付着すると腐食、変形の原因になります。また、薬品が飛散し危険です。

お手入れの際は手袋を着用する  
着用しないとケガの原因になります。



手袋着用

# 特長

最近の建物は気密性が高く、冷暖房効果・しゃ音効果が高いという特長があります。  
その反面、加湿不足による建物・機器への影響や働く人の健康を損なう心配があります。

単独加湿ユニットはロスナイとの組み合わせにより「建築物衛生法」をクリアする加湿量を確保できます。  
ロスナイは…室外の空気を室内の温・湿度に近づけながら室内に給気するとともに、汚れた空気を室外に排気します。

## 主な特長

- |          |                                    |  |
|----------|------------------------------------|--|
| <b>1</b> | ロスナイとの組み合わせにより<br><b>建築物衛生法クリア</b> | 加湿ユニットによる加湿分とロスナイの湿度回収分で建築物衛生法で規定されている相対湿度基準をクリアできます。<br>※計算条件……室内空気：23℃、40%RH 外気：0℃、50%RH<br>使用ロスナイ：LGH-N50RS（換気風量500m <sup>3</sup> /hの時） |
| <b>2</b> | 滴下気化式加湿エレメントによる<br><b>快適な加湿</b>    | 滴下気化式加湿エレメントを採用。<br>常に新鮮な水を供給し、快適な加湿空気を室内に供給します。   |
| <b>3</b> | 内蔵温湿度センサーによる<br><b>加湿量の自動制御</b>    | 本体に内蔵した温湿度センサーにより、室内の温湿度を検知し、加湿量（循環風量）の強・弱・停止を自動で制御します。  |

この製品は加湿器の衛生性確保等のため、以下の動作を行います。

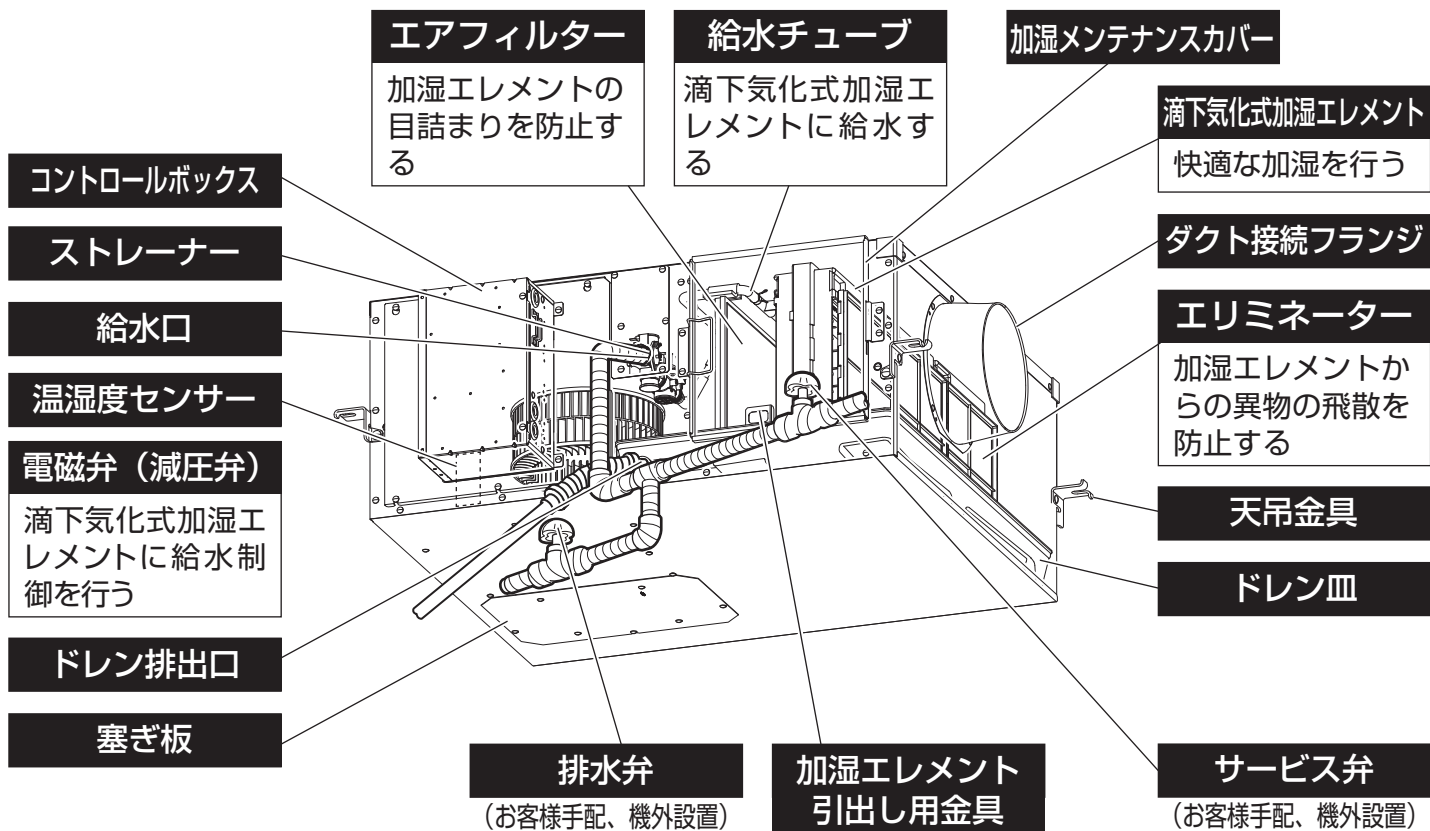
- 加湿準備運転  
加湿運転開始時、送風機を約5分間自動停止した状態で電磁弁を開き給水を行います。（加湿エレメントを湿らせ、加湿の立ち上がりを早くするために行います）
- 加湿エレメント乾燥運転
  - ① 運転停止後、加湿エレメントが湿った状態で放置されることを防ぐため自動乾燥運転を行います。  
開始時間：運転終了から5分後  
乾燥時風量：強  
乾燥時間：最大2時間
  - ② 連続運転等で加湿エレメントの乾燥運転が累積25時間行われなかった場合、加湿エレメントへの給水を一時停止し、自動乾燥運転を行います。  
乾燥時風量：運転時設定風量  
乾燥時間：強 最大2時間、弱 最大3時間

### メモ

- 加湿運転中は水がドレン排出口より排水されます。
- 運転開始時、最初の5分間は室内温湿度を判別するため、センシング運転（電磁弁を閉じた状態で送風機運転）します。センシング運転後、加湿が必要な場合に加湿運転を開始します。

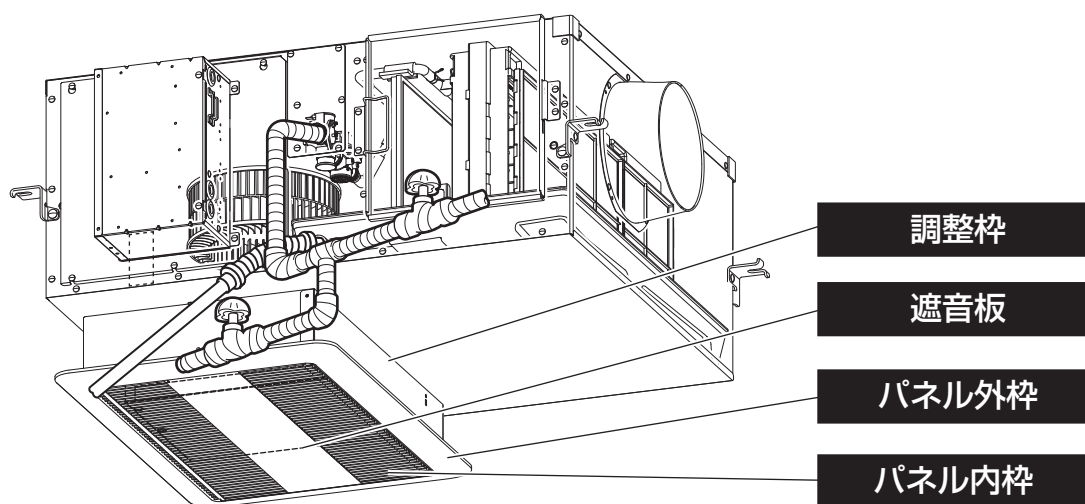
# 各部のなまえとはたらき

## 天井埋込形



## 天井ビルトイン形

(別売システム部材「単独加湿ユニットビルトイン設置用パネル PT-240P」取付時)



# 使いかた

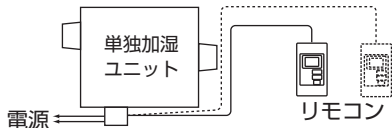
リモコン (PT-04S) を使用して該当する操作を行ってください。

●リモコンの取扱説明書もあわせてご覧ください。

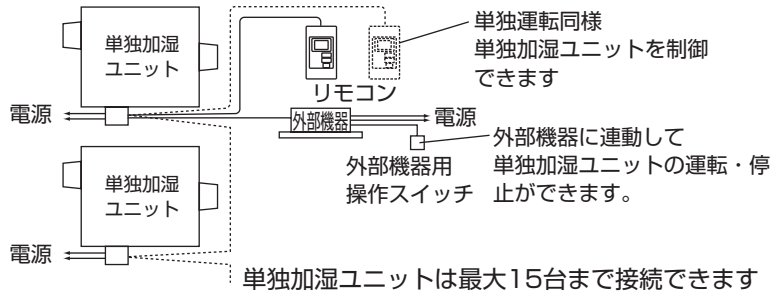
## 〈システム例〉

単独加湿ユニット単独運転の場合と外部機器 (空調機等) と連動運転する場合を説明します。  
リモコンはどちらの場合も2台まで接続することができます。

### 〈単独加湿ユニット単独運転の場合〉



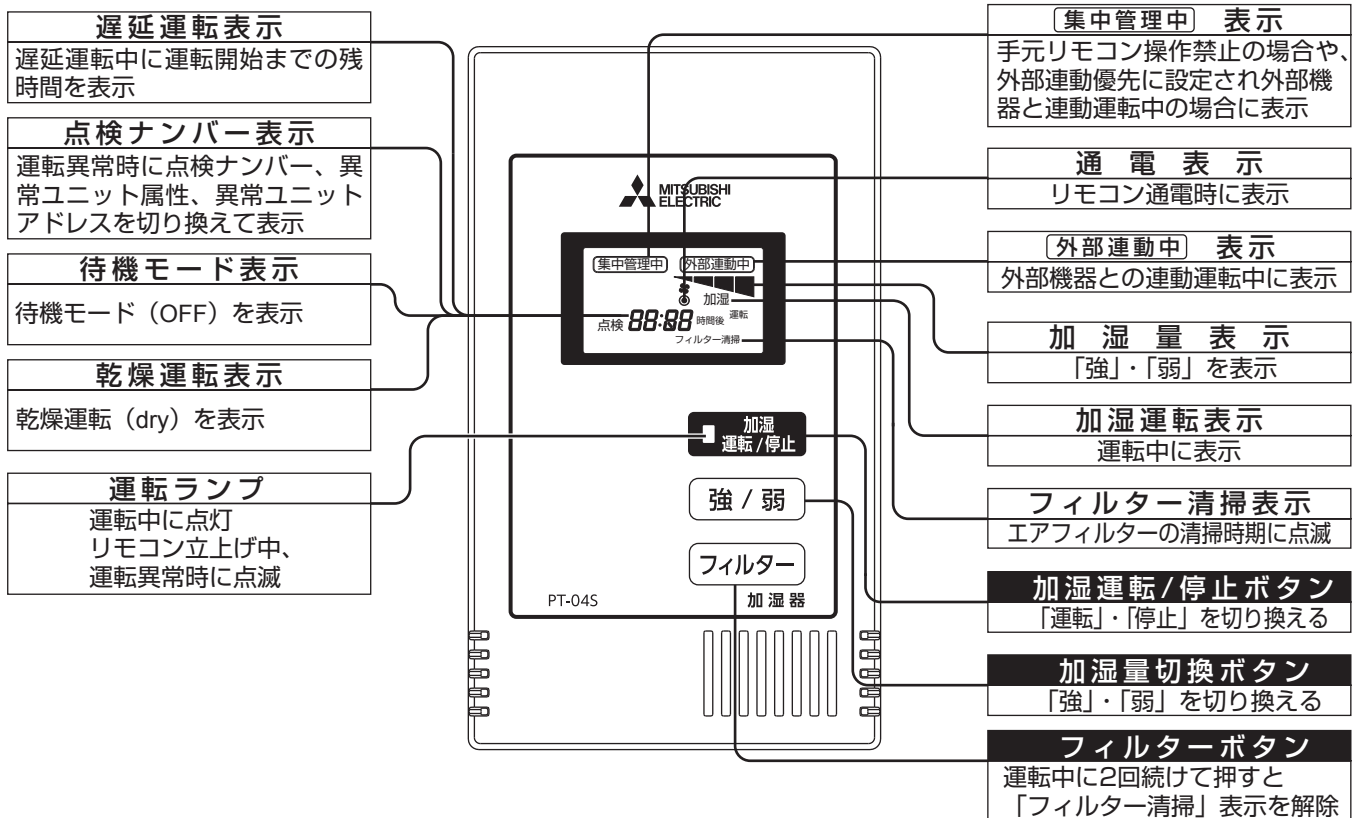
### 〈外部機器と連動運転する場合〉



### メモ

- 2台のリモコンを接続しているとき、後から操作したほうのリモコンで単独加湿ユニットが制御されます。







## 〈各部のなまえとはたらき〉



### メモ

- バックライトが消えているときは最初のボタン操作でバックライトを点灯します。操作内容は受け付けません。(加湿運転/停止ボタンは除く)

## 〈単独加湿ユニット単独運転の場合〉

操作項目	操 作 部	表 示 部	手 順
1. 運転開始	 加湿 運転/停止 運転ランプ	 加湿	加湿運転/停止ボタンを押す (運転ランプ点灯)
2. 加湿量の切換		 加湿 「弱」を示す	加湿量切換ボタンを押す 「強」または「弱」を選ぶ
3. 運転停止	 加湿 運転/停止 運転ランプ	 dry	加湿運転/停止ボタンを押す (運転ランプが消灯し、単独加湿ユニットは電磁弁が閉止し、5分後に乾燥運転になります) 運転停止5分後に、乾燥 (dry) が点灯します。 (2時間経過後、乾燥運転は自動で停止します)

## 〈外部機器と連動する場合〉

外部機器によって単独加湿ユニットを運転・停止することができます。

外部機器によって単独加湿ユニットが運転を開始したときはリモコン表示部に「外部連動中」を表示します。

単独加湿ユニットが遅延設定されている場合で連動運転開始時は「0:30時間後運転」となります。

### 加湿量切換について

単独加湿ユニット単独運転の場合と同様に行ってください。(上記参照)

## 〈当社マルチエアコンと連動する場合〉

単独加湿ユニットと当社マルチエアコンをMELANSに接続する場合、マルチエアコンの暖房運転に連動して、単独加湿ユニットを運転・停止させることができます。

マルチエアコンが暖房運転以外(冷房、送風等)のときは待機モードとなり、給水電磁弁、送風機は停止します。

※待機モード中は、加湿運転/停止ボタンのみ操作することができます。

※待機モード中、MELANSのシステムコントローラ等では運転表示となります。システムコントローラ等から単独加湿ユニットの加湿運転中または待機モード中を確認することはできません。

〈待機モード中のリモコン表示〉



### 加湿量切換について

単独加湿ユニット単独運転の場合と同様に行ってください。(上記参照)

# お手入れ

単独加湿ユニットの機能低下を防ぐため、エアフィルター・加湿エレメント・エリミネーターに付着したごみ・ほこりを定期的に清掃してください。

製品内にもごみ・ほこりがたまっている場合は、製品内も清掃してください。

目安 エアフィルター……………1年に1回以上

(またはリモコンの「フィルター清掃」が点滅したとき)

加湿エレメント、エリミネーター……………1年に1回以上

※エアフィルター、加湿エレメント、エリミネーターのお手入れは、工事店様にご依頼ください。

■ エアフィルター、加湿エレメント、エリミネーターの数は下表をご覧ください。

機種	エアフィルター	加湿エレメント	エリミネーター
TKA-2400R2	1枚	3個	3個(連結)

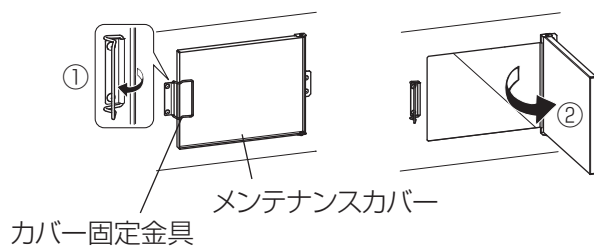
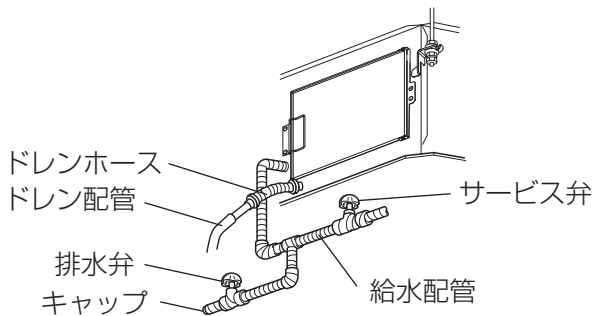
## 警告

- お手入れの際は、必ず分電盤のブレーカーを切る  
(通電状態では感電やけがをすることがあります)

## 注意

- お手入れの際は手袋を着用する  
(着用しないとけがの原因になります)
- お手入れ後の部品の取付けは確実に行う  
(落下によりけがをすることがあります)

## 点検前の準備



### 1. サービス弁を閉じる。

(残留水の飛散防止のため)

### 2. 水漏れ対策をする。

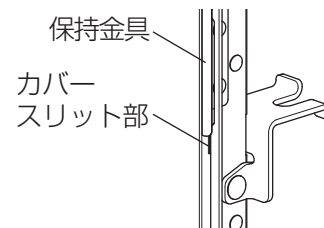
- 加湿エレメント内の水がこぼれるおそれがあります。天井裏にビニールシートを敷くなど水漏れ対策をしてください。

### 3. 配管内の残留水を抜く。

- バケツ等で受けながら排水弁を開く。

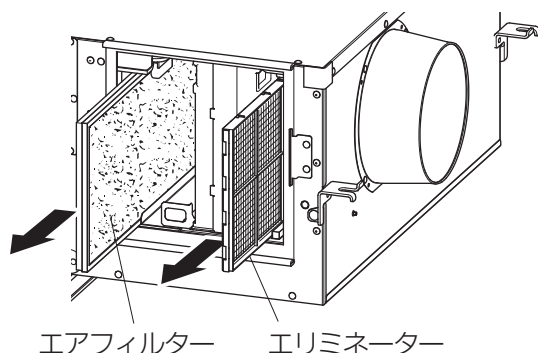
### 4. メンテナンスカバーを開ける。

- ① カバー固定金具を矢印方向にはずす。
- ② メンテナンスカバーを手前に引いてカバーを開ける。



※メンテナンスカバーはカバーを開けた状態で、カバーのスリット部を保持金具形状に合わせることで取りはずしが可能です。

## エアフィルター・エリミネーターのはずしかた



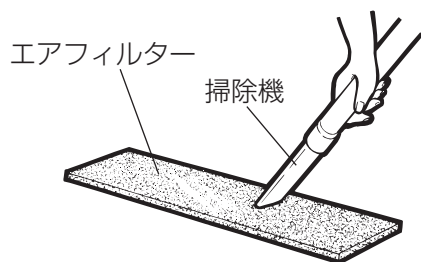
エアフィルター、エリミネーターを上下のレールに沿って引き出す。

### エアフィルター・エリミネーター個数

エアフィルター	エリミネーター
1枚	3個(連結)



## エアフィルターの清掃のしかた



掃除機でほこりを吸い取る。

汚れのひどい場合は、水またはぬるま湯（40℃以下）に中性洗剤を溶かして押し洗いをし、よく乾かす。

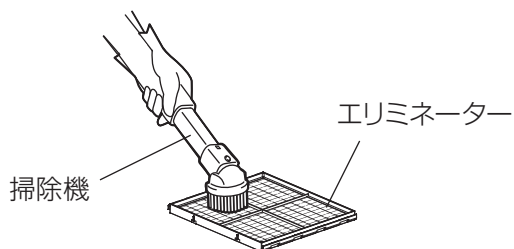
### お願い

- 熱湯で洗ったり、もみ洗いはしないでください。
- 直接火にあてて乾かすことはしないでください。

### メモ

- 交換用のエアフィルターがシステム部材として用意されていますので古くなったエアフィルターは交換してください。

## エリミネーターの清掃のしかた



掃除機などでほこりを吸い取る。汚れのひどい場合は、水またはぬるま湯（40℃以下）で洗い、よく乾かす。

### お願い

- 水洗いしたエリミネーターは日陰で十分乾かしてください。
- ブラシやタワシを使用して洗わないでください。
- 洗っても汚れが落ちない場合は、エリミネーターを交換してください。

# 保守点検 [工事店様用]

長い間ご使用いただくため、1年に1回を目安に下記の点検を工事店様にご依頼ください。

製品を数シーズン使用すると内部が汚れて性能が低下します。また、臭いが発生したりごみやほこりなどによりドレンホースが詰まり、製品から水漏れまたは、異常停止することがあります。

通常のお手入れとは別に保守点検契約をおすすめします。

■ 保守点検の際は、必ず本体の元電源をブレーカー等で遮断する。（点検中に保護運転がはたらくのを防ぐため）

■ 加湿部の清掃時は、洗浄剤などを使用しないでください。

点検部品	保守点検内容		保守を怠った場合
	点検項目	処置方法	
ストレーナー	ごみによる目づまりの点検	目づまりが生じている場合は洗浄	加湿不能
	Oリング亀裂の点検	亀裂が生じている場合は部品交換	水漏れ
給水管	傷や水漏れの点検	傷や水漏れがある場合は部品交換	水漏れ
電磁弁	水漏れの点検	水漏れがある場合は部品交換	水漏れ
エリミネーター	ごみによる目づまりの点検	ほこりを掃除機で吸い取る。汚れのひどい場合はぬるま湯（40℃以下）で洗い、よく乾かす	風量低下 加湿能力低下
ドレン皿	ドレン皿表面のごみ・ほこり点検	付着している場合は、ふき掃除を行う	風量低下、ごみ・ほこりの異物室内落下
	ドレン皿排水口のごみ・ほこり点検	排水口にごみ詰まりが生じている場合はふき掃除または洗浄を行う	水漏れ
加湿エレメント	蒸発残留物、ごみ・ほこりの点検	ごみ・ほこりで風路がふさがれている場合は掃除機で傷つけないよう清掃、または12ページを参照し水洗いをする	風量低下 加湿能力低下 蒸発残留物飛散

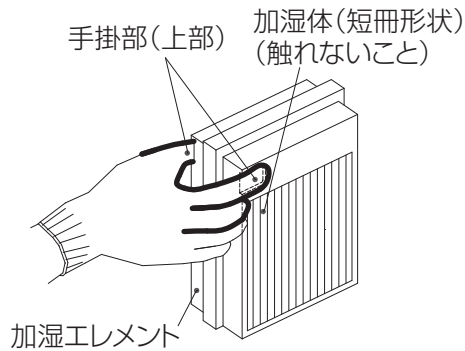
## ドレン皿・加湿エレメント・エリミネーターの清掃時の注意事項

- シンナー・ベンジンなどの溶剤や、酸性またはアルカリ性の洗剤、ナイロンたわしなどは使用しないでください。（プラスチックを劣化させます）
- 切削油などの油が付着した場合には多量の水で洗い流してください。ドレン皿の汚れがひどい場合には中性洗剤を使用し、その後十分に洗剤分を洗い流してください。（プラスチックを劣化させます）
- 40℃以上の湯や洗剤は使用しないでください。（変形のおそれがあります）

## 加湿エレメントのはずしかた

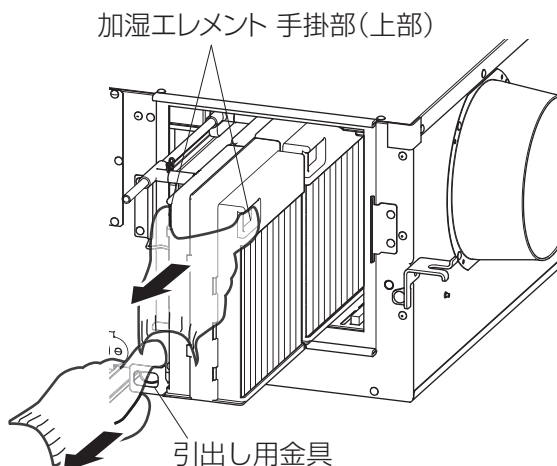
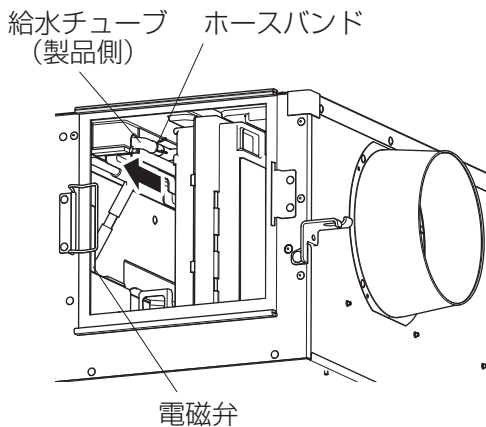
### お願い

- 加湿エレメントと一緒に給水チューブも引き出してください。（加湿エレメント内部に残っている水をドレン皿に出してください）
- 給水チューブは、折り曲げ・引っ張りなどしないでください。
- 加湿エレメントの引き出しの際は、加湿エレメントの手掛部をつかんで引き出してください。加湿体（白色部）には触れないでください。（破損や加湿量低下の原因となります）



### 加湿エレメント個数

加湿エレメント
3 個



### 1. 加湿メンテナンスカバーを開ける。

（はずしかたは8ページの「点検前の準備」を参照）

### 2. エアフィルター・エリミネーターをはずす。

（はずしかたは8ページの「エアフィルター・エリミネーターのはずしかた」を参照）

### 3. 給水チューブ（製品側）のホースバンドをはずす。

#### お願い

- 給水チューブをはずすときは、ホースバンドをつまんでずらした後、チューブをはずしてください。
- 給水チューブをはずすときに、スチロールを破損させないように取りはずしてください。
- 電磁弁から給水チューブを取りはずさないでください。（給水チューブ（製品側）は製品内に残したまま加湿エレメントの取りはずしができます）
- 給水チューブをはずすときは、本体内部のドレン皿に水が落ちるようにしてください。
- 給水チューブ（製品側）が加湿エレメント側の給水チューブに引っかからないようにずらしてください。

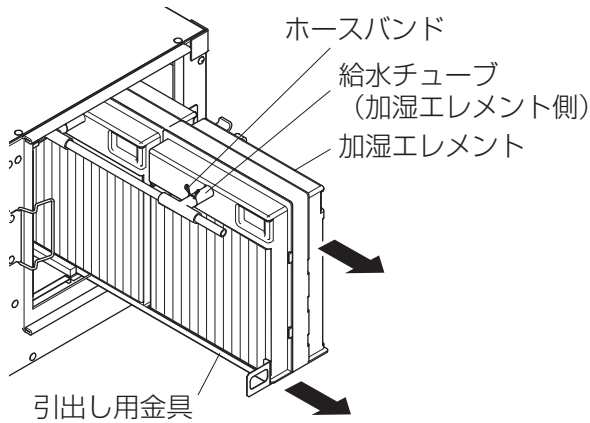
### 4. 加湿エレメントを引き出す。

引出し用金具と加湿エレメントの手掛部を持って加湿エレメントを引き出す。

#### お願い

- 加湿エレメント取り出し時、給水チューブの残水をドレン皿に排出し、製品外へ漏れないように注意してください。

# 保守点検 つづき

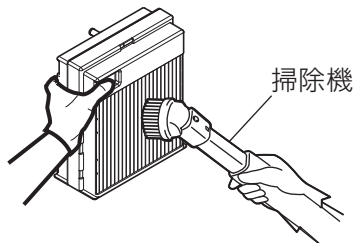


## 5. 加湿エレメントを取り出す。

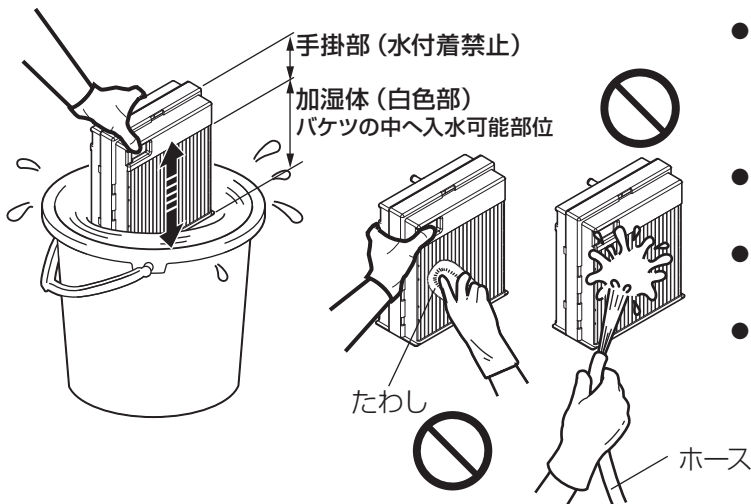
給水チューブ（加湿エレメント側）のホースバンドをつまんでずらし、加湿エレメントをはずす。

## 加湿エレメントの清掃のしかた

### 〈掃除機による清掃〉



### 〈水洗いによる清掃〉



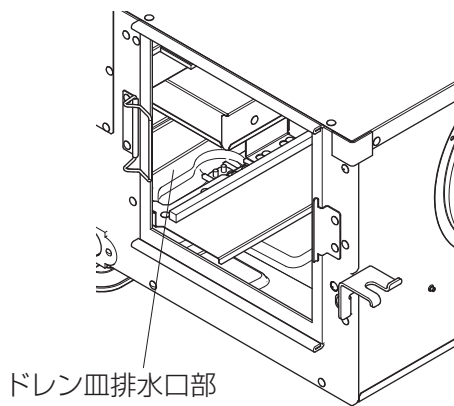
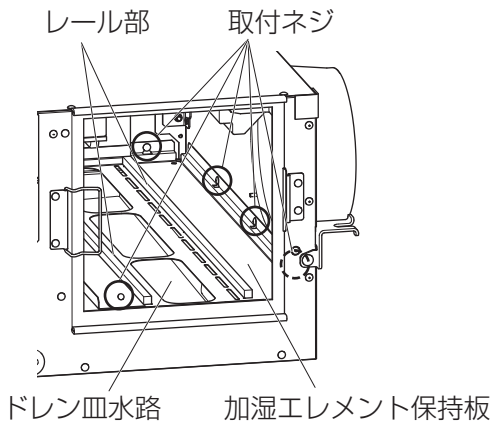
加湿エレメント表面にごみ・ほこりが付着した場合は、掃除機で加湿エレメント表面を傷つけないよう吸い取る。

よごれがひどい場合は、バケツなどに水を入れ加湿エレメントを4～5回揺らすように上下させて、ごみ・ほこりを洗い流す。バケツでごみ・ほこりを洗い流す場合は、加湿体（白色部）を水中に入れ、手掛部には水を付けないようにしてください。（性能低下の原因になります）

### お願い

- たわしでこすったり、直接ホースで水をかけないでください。（加湿エレメントが破損の原因となります）
- 蒸発残留物は落とせません。残留物の付着が多く加湿量が少ないと感じられる場合には、加湿エレメントを交換してください。交換時期の目安は裏表紙をご参照ください。
- 加湿エレメントは分解して清掃をしないでください。（破損・水漏れ・性能低下の原因になります）
- 加湿エレメントを落としたり衝撃が加わらないようにしてください。
- 40℃以上の湯や洗剤は使用しないでください。

## ドレン皿の清掃のしかた



1. エアフィルター、エリミネーター、加湿エレメントを取りはずし、加湿エレメント保持板のレール部、ドレン皿水路のごみ、ほこりを布で拭き取る。

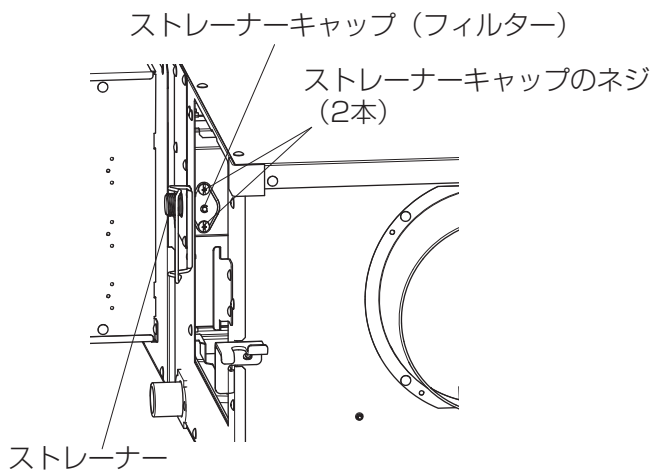
※加湿エレメント保持板は取付ネジ（5か所）をはずして取りはずせます。

2. ドレン皿の排水口部およびドレン皿表面の窪み部にごみ・ほこりが付着し、排水詰りが生じている場合には布でふき取る。

3. 汚れをふき取った後に大量（約1,000cc）の水で洗い流し、排水されることを確認してください。

※はずしたネジは、なくさないように保管をお願いします。

## ストレーナーの清掃のしかた



1. エアフィルター、エリミネーター、加湿エレメントを取りはずす。（取りはずしかたは8・11ページをご参照ください）

2. ストレーナーキャップのネジをはずす。（2本）

3. ストレーナー内のフィルターに付着した汚れを水で洗い落とす。

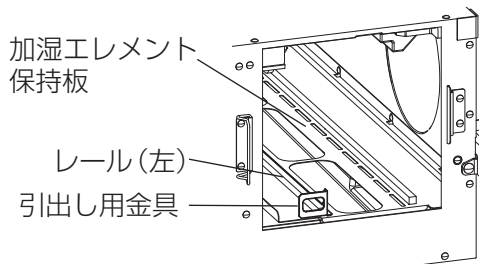
4. ストレーナーキャップを取付ける。

5. 取りはずしと逆の順序で取付ける。

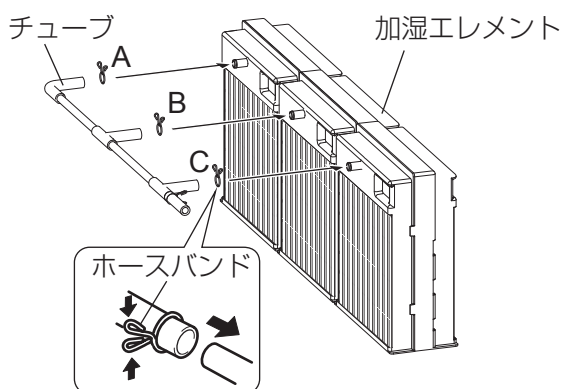
※はずしたネジは、なくさないように保管をお願いします。

## お手入れ後の組立てと確認 ……取りはずしと逆の順序で取付ける。

### ① 引出し用金具のセット

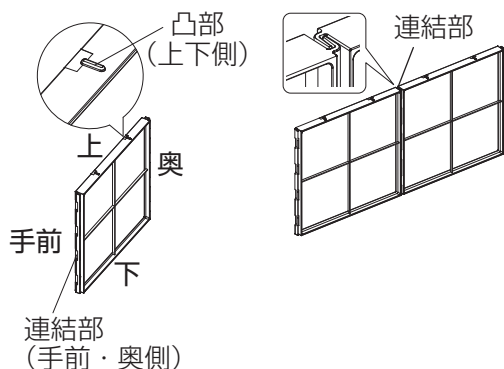
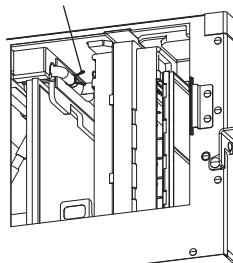


### ② 加湿エレメントとチューブの接続



### ③ 製品内でのチューブ接続

ホースバンド



### 1. 加湿エレメントを取付ける。

- ① 加湿エレメント保持板左側のレールに合わせて、引出し用金具をセットし、加湿エレメントを製品に取付ける。
- ② 加湿エレメントに給水チューブ（加湿エレメント側）を取付け、ホースバンドA～Cで固定する。（給水チューブを確実に接続し、ホースバンドのつまみ部は下側へ向ける）
- ③ 製品に取付け後、給水チューブ（製品側）と給水チューブ（加湿エレメント側）を接続しホースバンドで固定する。

#### お願い

- 加湿エレメントを取付けの際は、加湿エレメントの手掛部をつかんで押し込んでください。加湿体（白色部）には触れないでください。（破損や加湿量低下の原因となります）（11ページ参照）
- 水漏れがないことを確認してください。
- 引出し用金具は忘れずに元の位置にセットしてください。

### 2. エリミネーターを取付ける。

- 必ず加湿エレメントの右側にエリミネーターを取付けてください。（方向は、凸部：上・下側、連結部：手前・奥側）
- エリミネーターを連結させてから取付けてください。
- 取付け忘れや取付方向を間違えると給気吹出口から室内へ水飛散または異物落下の原因となります。

### 3. エアフィルターを取付ける。

- エアフィルターのエレメント側の矢印が加湿エレメント側になるよう、上下のレールに合わせて取付けてください。

### 4. メンテナンスカバーを閉じる。

- 取りはずしと逆の手順でメンテナンスカバーを閉じてください。

## 点検後の確認

### 1. サービス弁を必要に応じて開ける。

- 夏期は加湿を必要としない場合が多いため、サービス弁を閉じておくことをおすすめします。
2. 冬期(加湿時期)に、凍結のおそれのある地域では必ず凍結防止用ヒーターの電源が入っているか確認する。
  3. 試運転を行い、水漏れがないことを確認する。
  4. 試運転後、しばらく運転しない場合は乾燥運転を行ってください。詳しくは据付工事説明書をご確認ください。

# 故障かな？と思ったら

次のような現象が生じた場合は下記を参照してお客様自身で処置をしてください。

現象	原因	処置
加湿しない	元電源が入っていない	元電源を入れる
	エアフィルター・エリミネーターが目詰まりしている	「お手入れ」に従って清掃する
	外部機器連動運転の場合で外部機器が「切」になっている	外部機器を運転させる
	室内湿度が設定湿度より高い	湿度が下がるまで運転を待つ
	連動しているエアコンが冷房、送風運転している	異常ではありません 暖房のときのみ連動して加湿します
	リモコンの運転スイッチが「切」になっている	「入」にする
	給水されていない	サービス弁または元栓を開く
加湿運転/停止ボタンを押さないのに動きだした	運転停止5分後、自動送風運転し、加湿エレメントを乾燥させます	異常ではありません
加湿運転/停止ボタンを押さないのに停止した(運転しない)	リモコンに“集中管理中”の表示が点灯	停止を指示したところへ連絡・確認する
	室内湿度が設定湿度より高い	湿度が下がるまで運転を待つ
	遅延設定されている場合は30分後に運転します	異常ではありません

※上記の処置をしても改善されない場合は、お買上げの販売店にご相談ください。

また、リモコンに“点検”または何らかの点検ナンバー(エラーナンバー)(4桁)が表示されたときは、その内容をお買上げの販売店にご連絡ください。

## アフターサービス

アフターサービスはお買上げの販売店かお近くの「三菱電機 修理窓口・ご相談窓口」(別紙)にご相談ください。別紙チラシが不明な方は下記窓口へお問い合わせください。

### ■ご相談窓口

平日 9:00～19:00

土・日・祝 9:00～17:00

三菱電機冷熱相談センター 電話 0037-80-2224 (無料)

※電話番号などについては変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

**異音がする、風が出ないなど異常があれば必ず電源を切って、お買上げの販売店へご連絡ください。点検・修理に要する費用などは販売店にご相談ください。**

### ■補修用性能部品の保有期間

当社はこの業務用単独加湿ユニットの補修用性能部品を製造打切り後9年保有しています。

補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

## 加湿エレメントの交換の目安について

- 加湿エレメントは交換が必要な消耗部品です。
- 使用過程において加湿量が少なくなった場合は、加湿エレメントの交換をしてください。(お客様ご負担)
- 交換の目安は下記の通りとなります。(加湿能力が70±10%程度まで低下した場合を交換の目安としています)

	硬度 70 以下	硬度 100
交換の目安	4 シーズン (5,000 時間)	3 シーズン (3,750 時間)

- 上記は使用シーズン(加湿運転時間)です。使用シーズン数、加湿運転時間のどちらかが上記に達する時間を交換の目安としてご検討ください。  
〔参考〕1日10時間/日×125日/1シーズン=1,250時間/1シーズンのご使用を想定しています。
- 供給水(水道水)中の硬度、イオン状シリカ、酸消費量が多い場合は、加湿エレメントの劣化が早まり、加湿能力の低下、変色、白粉発生などがあらわれることがあります。
- 交換の目安は、保証期間を示しているものではありませんので、ご注意ください。

## 仕様

形名	周波数 (Hz)	消費電力(W)	定格風量 (m <sup>3</sup> /h)	加湿量 (kg/h)	騒音値 (dB)		質量 (kg)
					本体直下	本体吹出口	
TKA-2400R2	50	158	720	2.4	33.5 (43)	38	33 満水時 36 (37 満水時 40)
	60	201	720	2.4	33.5 (43)	39	

※騒音値は無響室で測定した本体真下 1.5m の値です。

※本体吹出口騒音は斜め 45°、1.5m 前方の値となります。

※上記の値は加湿強運転の場合を示します。

※( ) の値は別売システム部材ビルトインパネル PT-240P を取付時、パネル真下 1.5m の値となります。

※表示加湿量は空気条件が室内温度 23℃、相対湿度 40%、定格風量の場合の特性です

●表示加湿量に対し±10%の範囲を許容しています。

※上記数値は、初期特性を示します。

お客様 メモ サービスを依頼される とき便利です。	形名	
	お買上げ年月日	年 月 日
	お買上げ店名 (住所) (電話番号)	( )

この製品には地球環境保護の一環として再資源化ができるように主なプラスチック部に材質名を表示しています。

(材質名は主材料にISO規定の略号を使用)

## 三菱電機株式会社

中津川製作所 〒508-8666 岐阜県中津川市駒場町1番3号

この説明書は、再生紙を使用しています。